

間伐材 視線誘導標に活路

大船渡市の建設資材販売、橋爪商事が昨年開発した全国でも珍しい木製の視線誘導標が、岩手県や宮城県の道路沿いに設置されている。交換作業の手間がかからず、間伐材の活用で環境にも配慮していることが評価され、導入につながっているようだ。

視線誘導標は道路の線形をドライバーに伝えるため、主に道路の左右に設置。長さ約1㍍の棒状で、上部には反射材が付く。住宅の外壁に使う塗料を間伐材に塗ることで風雨や

紫外線による劣化を抑え、腐食やひび割れ、虫食いなど木製品特有の課題を克服した。

一般的な誘導標は樹脂製で、車の衝突などで壊れた場合、複数の作業員で周辺の土を掘り起こして交換し、再び設置し直す必要があった。昨年3月に特許を出願した新商品

は、既存の誘導標を根元で切断し、その中に差し込むだけで設置が可能。交換作業は1人だけで短時間で

済むという。昨年9月に岩手県住田町の国道107号沿いに約100本を設置。その後、大船渡市や盛岡市、宮城県川崎町でも採用された。官公庁からの注文が大半で、今後は蓄光塗料を施し、歩行者からも見やすくする工夫を重ねる方針だ。

同社新商材室の高橋宏児さん(55)は「取り付け、取り外しが大変だった。施工が簡単で環境にも優しい誘導標を多くの場所で使ってほしい」と話している。

大船渡・橋爪商事開発

環境配慮 交換、差し込むだけ

